

委員からの質問・意見への回答

(資料の見かた)

- 各委員が出された質問・意見は四角囲いの中に記入しています。
- 四角囲いの下に、長崎大学等の回答を書いています。
- 回答者としては、長崎大学となっています。

目次

(1) 道津 靖子 委員提出	2
(2) 神田 京子 委員提出	4

(1) 道津 靖子 委員提出

山里中央自治会班長会（7/23 開催）で、6/28 開催の第 41 回地域連絡協議会での議事を説明し、班長さん達からの意見をまとめました。

①BSL-4 で「軍事目的の利用は大学として認めない」こと

軍事などの研究を受け入れない規程を明示し、長崎大学学長宣言として BSL-4 施設の玄関と BSL-4 施設に隣接した新しい研究棟の玄関に大きく掲示してあったことを説明した。

→大学側の対応が適切で以外にも迅速だったので、ほっとされていた。

大学は、この規定に則り、各研究計画書の審査において厳格な審査を行ってほしい。

②実験情報開示フォーム

実験情報の開示にあたり、実際のウイルス名を明記する。

また、今後の研究予定の項目には、研究や実験が今後どのような形で医学や人類に貢献できるかとかの展望も記述することを安田先生が約束してくれましたと説明した。

→肝心なところは黒塗りなのではと心配されていたが、安田先生の回答を聞いてほっとされていた。透明性のある運営であってほしいと願うとも言われていた。

③有害事象が起こった場合の住民へ伝達を行う目安について

例えば病原体への暴露事故が発生した時、感染が確認される前に、まず第一報として自治会長・連合会長に連絡が来る。その後感染が確認されたら、第二報として皆さんにもお知らせする。第一報を受けた自治会長の動きや、行政の対処の仕方、大学から判断できる材料不足など様々な意見がでたことを説明した。

→伝達方法・手段は議論の途中であろうが、「病原体の暴露が発生」と「病原体の紛失等が発生」時には、住民も第一報を行う対象にしてほしい、という意見あった。

④テロ対策

住民への配布資料の中に、「テロ対策」の項目が無いのは、対策していないのかと不安。対策は見せれない（記載出来ない）のは理解できるが、「テロ対策」は色々ちりばめられているとアピールしたほうが良い。

以上

(長崎大学の回答)

① BSL-4 で「軍事目的の利用は大学として認めない」ことについて

大学組織として厳格な審査を行うことにより、住民の方の気持ちにも応えることができるように致します。

② 実験情報開示フォームについて

研究の内容や成果の公開に関しては、本協議会に限らず、ホームページやプレスリリース等のいろいろな方法で、今後も公開できるところは積極的に公開し、透明性のある運営を心がけていきます。

③ 有害事象が起こった場合の住民へ伝達を行う目安について

病原体のばく露等の発生に際しては、大学から適切に伝達を行います。万が一緊急を要する場合は迅速にお知らせします。

④ テロ対策について

テロ対策については、セキュリティの観点から具体的にお示しできない点が多々ありますが、施設設備面での対策、利用者についての対策、関係機関との連携等、これまでも対策を進めてまいりましたが、今後も検討を進め、万全を期してまいります。

(2) 神田 京子 委員提出

前回の第41回地域連絡協議会でご説明いただきましたように、その後もハード・ソフトともに基盤が整った状況で、安全管理に関わる事項について、検証を行っていることと思います。

実験を行う研究者については、受け入れ・実験中の行動について、様々な要件を満たすことが条件となっていますが、実験室内の動物の管理、室内清掃、防護服のクリーニング、ヘパフィルターの交換等の場合については具体的な内容がはっきりと示されていません。

全体的にはこの数年の間に様々な対応予定について説明をいただいておりますが、現時点において決定している詳細についてご説明をお願い致します。

(1) 実験室内の動物について、誰が何時どのように行いますか？

- ・ 実験前後の動物とケージの清掃
- ・ 糞尿の処理
- ・ 室内の清掃

(2) 防護服について

- ・ 着用後、破れ等による不具合点をどのようにして確認するのですか。
- ・ 不具合が見つかった場合は、誰がどのようにして修復するのですか。
- ・ 着用後のクリーニングについては、どのような状態で業者に引き渡すのですか。

(3) ヘパフィルターについて

- ・ 交換時期のサインはどのようにして行われるのですか。
- ・ 交換時の取扱い業者は、訓練をうけるのですか。
- ・ 交換後のフィルターは取扱業者が廃棄するのですか。

(4) 実験室からの廃棄物処理については、専門業者が行うとのことですが、処理完了の確認は業者からのマニフェストだけですか。

廃棄状況の写真では行わないのですか。

以上

(長崎大学の回答)

(1) について

実験室内の動物の飼養管理については、高度感染症研究センター附属 BSL-4 施設に新たに設置された動物実験管理室のスタッフが担当します。

実験動物のケージの清掃について、ケージ内の糞便等や汚れた床敷は全て滅菌の上、特別管理廃棄物として処分されます。飼育ケージについては、実験終了後に全て滅菌し洗浄を行います。実験終了後の室内の清掃についても、消毒を行った上で清掃を行います。

(2) について

防護服については、実験者の重要な個人防護具になりますので、その取扱いについては教育訓練において重要な必修科目になり、不具合を見つけることを習得した者以外は扱えません。

着用後の不具合の点検は、まず実験室を利用する前に防護服に破損等がないことの確認を実施します。また、実験室を退出する前に、特に重要な手袋等に穴や破れがないこと等を確認し、さらに薬液シャワー室での防護服の除染時にも服内に水漏れがないことの確認を行います。なお、防護服の手袋は問題がなくても定期的の実験者が自ら交換します。防護服自体の不具合については、簡単に穴が開くような材質ではありませんが、気密検査等を行い、問題がある場合には専門業者に確認しながら、大学側で補修ができない場合には、除染の上、業者に修繕を依頼することになります。

防護服は薬液シャワーでの除染がクリーニングであり、実験室入室前のスーツ室にて保管することになります。クリーニングのために業者に引き渡すことはありません。

(3) について

HEPA フィルターについては、通過する空気のフィルターの前後の圧力差を計測器で確認し、一定以上の圧力差が確認されたものは定期点検時の予防的補修の交換対象になります。交換を行う業者は十分な経験実績を有する専門業者で、管理区域に立ち入るための必要な教育訓練を行い、BSL-4 施設の構造・特性を把握した上で、作業が行われます。

フィルターの交換前には必ず燻蒸除染を行い、病原体がない状態で大学の責任の下、特別管理廃棄物として廃棄物処理業者により処分されます。

(4) について

廃棄物の処理の完了の確認は、原則、廃棄物運搬業者、廃棄物処理業者からの報告書で行うことになりますが、さらなる確認についてはどのような方法があるか等を含めて検討中です。